

# 高松市美術館 年報

／ 令和 3 (2021) 年度

## 高松市美術館凡例

新収蔵作品のデータは、原則として以下の通りに記した。

作家名

作品名

制作年

技法・材質

寸法(平面＝縦×横／立体＝高さ×幅×奥行き、高さ×直径の順)

収集区分(購入、寄贈)

また作品リストは、展覧会期中に配布した目録を作品リストを再編集して掲載した。

美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

Let's go to the museum

世界中で親しまれている絵本の主人公・ミッフィー(うさこちゃん)。生みの親であるディック・ブルーナ(1927-2017)は、オランダを代表する絵本作家、グラフィックデザイナーです。彼が手がけた数々の絵本は、個性的で愛らしい登場人物とともに、時代を超え子どもから大人まで愛されています。1997年に出版された絵本『うさこちゃんびじゅつかんへいく』は、ミッフィーが両親と初めて美術館を訪れ、作品に驚いたり感動したりと様々な体験をするお話です。この絵本を通して、難しく思われがちなモダン・アートも、実はとっても楽しいものだよ、とブルーナは伝えてくれます。

本展では、この絵本の内容に沿って、当館所蔵作品を紹介するとともに、イラストや表紙デザインなどブルーナが手掛けた作品を通して、彼の追い求めた表現に迫りました。

Miffy is the main character of a picture book that is familiar all over the world. Dick Bruna (1927-2017), the creator of Miffy, is a leading Dutch picture book author and graphic designer. His numerous picture books, with their unique and lovable characters, have been loved by both children and adults throughout the ages. The picture book "Miffy at the Gallery", published in 1997, tells the story of Miffy's first visit to an art museum with her parents and her various experiences of being surprised and impressed by the artworks. Through this picture book, Bruna tells us that modern art, which is often considered difficult, is actually very enjoyable. This exhibition introduced the works in the museum's collection in line with the content of the picture book, and also explores Bruna's pursuit of expression through his illustrations, cover designs, and other works.

- ◆会期 2021年4月17日(土)～6月11日(金) 26日間  
※新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館：5月4日(火)～5月30日(日) 23日間  
※臨時開館：6月7日(月)  
※当初の会期：4月17日(土)～6月6日(日)  
月曜日(5月3日(月・祝)、6月7日(月)開館)
- ◆休館日
- ◆主催 高松市美術館
- ◆特別協力 ディック・ブルーナ・ジャパン／Mercis bv
- ◆協力 福音館書店、KUTSUWA
- ◆企画協力 キュレイターズ
- ◆入場料 一般 1,000円、大学生 500円、高校生以下無料
- ◆入場者数 10,396人
- ◆担当学芸員 尾形絵里子



(チラシ表)



ゆかたと藍の世界

The World of Yukata and Japanese Indigo

藍は、古くは奈良時代から現代に至るまで日本で衣服や布製品の染料として使用されてきました。中でも、ゆかたは、木綿が普及した江戸時代中頃から藍染と結びついて発展した染織品の代表でもあり、現代の私たちにとっても、藍染のゆかたは親しみのあるものとなっています。

本展では、ゆかたの歴史と変遷を振り返りながら、ファッションから現代アート作品まで「ゆかた」と「藍」をキーワードに紹介しました。江戸時代の藍染衣装から、絹地に藍染が施された朝廷の女官の衣装、長板中形の技法で精緻な型染めをほどとしたゆかたなど、バリエーション豊かにお見せしました。また、現代に至って、伝統的な長板中形の技法で人間国宝（重要無形文化財保持者）に指定された清水幸太郎（1897-1988）や、松原定吉（1893-1955）と、孫にあたる松原伸生（1965-）、伝統に基づく藍染を現代の衣服に取り入れ進化させたファッションブランド *matohu*、藍の産地・徳島で藍の歴史を研究しながら、自然発酵建にこだわった藍染布の制作を続ける森くみ子（1959-）、さらに藍を表現手段として、着物だけでなく現代アートに昇華させた福本潮子（1945-）らの作品も展示しました。世代を越えて多種多様に展開していく「ゆかた」と「藍」の世界をお楽しみいただきました。

The Japanese indigo plant has long been used in Japan as a dye in the creation of clothing and textile products, from as far back as the Nara period (710 - 794) right up to the present day. As cotton became more ubiquitous in the middle of the Edo period (1603 - 1867), so too did the yukata forge a strong link with Japanese indigo dye, developing into an article of clothing representative of the medium. Even today, Japanese people feel a warm familiarity with an indigo dyed yukata.

This exhibition looked back over the history and changes that the yukata has seen, introducing everything from fashion pieces to works of modern art, and all based in the two keywords of “yukata” and “Japanese indigo.” There was a rich variety of articles on display, from the Edo period indigo dyed clothing, to clothing of indigo dyed silk worn by ladies-in-waiting in the Imperial Court, to yukata exquisitely dyed using the *negaita-chugata* technique. The exhibition also featured pieces from a varied selection of modern proponents of the yukata, including Kotaro Shimizu (1897-1988), who was a living national treasure (a holder of Important Intangible Culture Property) for his traditional *negaita-chugata* techniques; Sadakichi Matsubara (1893-1955) and his grandson Nobuo Matsubara (1965- ); the fashion brand *matohu*, which has taken traditional indigo dyeing and evolved it through incorporation into modern clothing; Kumiko Mori (1959- ), who researches the history of Japanese indigo in Tokushima, the source of the plant, while also creating indigo dyed textiles with a focus on natural fermentation; and Shihoko Fukumoto (1945- ), who has elevated Japanese indigo as a form of expression from clothing to modern art. Visitors immersed themselves in the shared world of the yukata and Japanese indigo, and explored the varied branches they have taken together across the generations.

- ◆会期 2021年7月17日(土)～8月6日(金) 18日間  
※新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休







高松市美術館特別展

# 美術館に行こう！

## ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方

凡例：  
作品番号／作者名（記載のないものはすべてディック・ブルーナ）  
作品名／制作年／素材・技法  
所蔵（記載のないものはすべてディック・ブルーナ・ジャパン）

### 第1会場 ディック・ブルーナ

|      |                                  |                |            |  |
|------|----------------------------------|----------------|------------|--|
| m- 1 | 「美術館に行こう！」展によせられたブルーナからのメッセージ    | 2007           | インク・紙      |  |
| m- 2 | スタジオにて                           | 年代不明           | プリント       |  |
| m- 3 | 『ちいさなうさこちゃん』                     | (1963 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m- 4 | 『うさこちゃんとうみ』                      | (1963 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m- 5 | 『うさこちゃんのおじいちゃんとおばあちゃん』           | (1988 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m- 6 | 『うさこちゃんのおじいちゃんとおばあちゃん』           | (1988 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m- 7 | ミッフィーとペン                         | 1970           | シルクスクリーン・紙 |  |
| m- 8 | うさこちゃんとトランポリン『うさこちゃんとうえんち』       | (1975 初版発行) より | オフセット・紙    |  |
| m- 9 | miffy 45th『うさこちゃんのおじいちゃんとおばあちゃん』 | (1988 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-10 | うさこちゃんとかまさん『うさこちゃんのたんじょうび』       | (1970 初版発行) より | オフセット・紙    |  |
| m-11 | miffy 45th『うさこちゃんのてんと』           | (1995 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-12 | miffy 45th『うさこちゃんのゆめ』            | (1979 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-13 | miffy and bear                   | 2007           | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-14 | miffy on the bike『うさこちゃんとしてんしゃ』  | (1982 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-15 | miffy in flower dress            | 2008           | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-16 | 『くまのぼりす』                         | (1989 初版発行) より | シルクスクリーン・紙 |  |
| m-17 | 『ボリスのやまのぼり』                      | (19            |            |  |









































